



## 可愛い動作の年少さん

3日(土)に、心配されたインフルエンザの影響も少なく、無事に年少さんの劇遊びを開くことができました。10か月前の入園式当日から比べると

随分と成長した姿を見せました。よくぞ、保護者の皆様の前で、



大きな声で、楽しそうに歌ったり、発声したりできました。「ママ、ママ」と乳離れできずに泣き叫んでいた子どもも、10か月経た今、自分が選んだ役になりきり、お話を楽しんでいました。

今年も、当日までどの役になりたいか迷っている子もいたようですが、補助の先生のサポートで、何とか小道具が間に合ったようです。

遊戯室で、今か、今かと子どもたちの出番を待っている私には、舞台裏で、今年も同じような事態が起きていたとは、つゆ知らず。しかし、子どもたちが、演じたい役になり楽しむことが目標ですから、全ての子どもが、なりたい役になれてよかったですと思っています。そのために、クラスによっては、担任が計画していた役のなり手がいなかったとか。

こんなところが本園のよいところかもしれません。誰も演じる役がない時、通常はどうされるのでしょうか？ 本園では、担任が、役を押し付けるのではなく、子どもの考え(?)を尊重した本園の教育方針である“子どもが真ん中、子どもが一番、子どもに真っ直ぐ”を忠実に実行したと思っています。劇遊びの後の親子レクリエーションでは、滅多に触れ合えない子どもと照れくさそうに遊びに興じているお父さんが印象的でした。



## たんぽぽさんとの微笑ましい交流



2月の中旬に年中さんとたんぽぽ学級の子もたちとの事前交流会がありました。中旬には、幼稚園で、たんぽぽ学級の皆さんを招いての交流会を実施しました。私がたんぽぽ学級を覗いたのは、水曜日コースでした。弟妹児のコースとあって、お母さんから離れても泣く子が少なく、毎日、家で顔を合わせている安心感から、お兄さんやお姉さんに甘えるたんぽぽさんもいました。年中さんも、年上を意識し、小さい子の面倒を見なければいけないと思ったのか、よく世話をしていました。わらべ歌、遊戯の時は、優しく教えてあげる場面もあり、年中さんが頼もしく見えました。

給食を含めた幼稚園での交流会で、私は、生憎会議のため、午前中は見られなかったのですが、初めは、泣く子もいたようですが、次第に慣れてきて楽しく遊んでいたということでした。幼稚園の長いテラスは、たんぽぽさんにとっては絶好の遊び場です。手に手を取って走りまわる姿を見かけました。また、広い教室で年中さんとカプラ遊びをしたり、折り紙を折ったりして、楽しいひと時を過ごしたようです。この交流会は、異年齢児と触れ合う数少ない機会ですから、こうした機会を増やし、お互いが思いやる心を育てたいと思っています。

### アンケートのご協力に感謝

先日から幼稚園運営に関するアンケートにご協力いただき有難うございました。私どもの教育方針にご賛同いただける方が多く、益々、教職員一同、子どもたちのために自己研鑽に努める必要性を強く感じました。また、参考になる意見をたくさん書いていただき、職員間で十分に話し合っていきたいと思っております。